

緑化だより

No.179 令和 4年1・2月合併号



マンリョウ

- 季節の花(あへたちばな)
- 昆虫の話(1月のガ)
- 小さな世界こけ
(チヂミカヤゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

うさぎの森

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811

FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>



季節の花

あへたちばな

「我妹子(わぎもこ)に 逢(あ)はず久(ひさ)しも うましもの

阿部橘(たちばな)の 苔(こけ)生(む)すまでに

作者未詳 万葉集 卷11-2750

これを訳しますと

(私の愛する人に 逢わなくなってから、もうだいぶん長くなった。

あの立派な阿部橘の木も 古くなって苔が生えてきた)

万葉名「阿部橘(あへたちばな)」は、和名ダイダイ、中国名橙のことです。

ダイダイはミカン科ミカン属の常緑小高木で、高さ 4~5 mになります。枝の変化したトゲがあり、葉身と葉柄の間に翼状のものがついています。初夏には香のある 5 弁の白い花が咲き、冬に 7~8 cmの丸い黄熟した果実をつけます。インド、ヒマラヤ原産で日本へは中国から渡来しました。また南ヨーロッパへも伝わりビターオレンジとして栽培されています。



ダイダイの実

ダイダイの果実は冬を過ぎても木から落ちず、2~3年は枝についています。冬期は橙色(だいだいいろ)になりますが、収穫せずに残しておく翌年の夏には、また緑色に変わり、再び冬が来ると橙色になります。そのことを漢名では回青橙(かいせいとう)と呼びます。



ダイダイの葉

和名ダイダイは、一本の木が年を越して数年代の果実が見られることから「代々栄える」と言われています。つまり新、旧の実が代々(だいだい)一緒に実ることが「ダイダイ」の由来です。

果汁は料理酢(ポン酢)に利用し、乾燥した果皮は漢方で橙皮(とうひ)といい健胃薬に用いられます。果肉は酸味と苦みが強く生食することはありませんが、煮つめてジャム(マーマレード)にします。

江戸時代以降、年の始めにしめ飾りや鏡餅にダイダイを飾り、1年の豊穰を願い、家庭の繁栄を祈るようになりました。(上村)

昆虫の話

1月のガ

明けましておめでとうございます。

さて、今月紹介するガはフユシャクです。真冬に成虫になって活動する昆虫はなかなかいませんが、ガの中には、シャクガ科にフユシャク、フユナミシャク、フユエダシャクと称する仲間が 35 種おり、いずれの種も厳冬期(12月~2月)に出現します。

フユシャクといえば、その第一人者である中島秀雄博士の研究が有名で、1986年に出版された著書「冬尺蛾」(写真)に研究成果が詳述されています。真冬に出現することだけでも驚

きですが、著書ではさらに興味深い特徴が多々記述されていますので、今回はその一部を紹介させていただきます。

まず、本の表紙の写真のごとく、フユシヤクは雄には翅がありますが、雌の翅は縮小・退化しています。雄は積雪時でも昼間に樹間を飛び夜間街灯に飛来するので目につきますが、雌は植樹の幹や枝に静止して目立たないことから見つけ出すのがなかなか困難です。しかし、見つけて刺激すると、逃げ足が非常に速く、驚かされます。

また、雄も雌も口吻が退化しています。フユシヤクは氷点下2度くらいまで活動し、氷点下10度くらいまでは凍らないとのこと。

博士は、食べ物の少ない冬季に敢えて摂食を避け、体の凍結を防ぎ、交尾・産卵活動に専念しているものと推測しています。凍らない体は、グリセリン濃度の高い体液により維持されているとのこと。

雌は交尾後、樹幹に産卵しますが、その卵は春に孵化し、幼虫は主に落葉樹の若葉を食べて成長します。そして初夏に蛹化、秋を経て真冬に羽化します。それにしても、なぜ寒い冬を選んで活動するのか不思議ですが、博士は、氷河期の到来による「冬の出現」→「翅の退化」→「口吻の退化」→「耐寒性の獲得」によるフユシヤクの繁栄を、地道な研究と過去の地球の歴史から紐解いたダイナミックな仮説により推測されています。その説得力には脱帽です。(相良)



中島博士の著書「冬尺蛾」



県内で普通に見られるフユシヤクの仲間
左:ウスバフユシヤク雄 右:シロオビフユシヤク雌

小さな世界 こけ

チヂミカヤゴケ

レストハウスの下、センター池を谷に向かって入っていったところにカツラの木が三本あります。そのうちの一本の樹幹にチヂミカヤゴケが着生していました。ほかでは学習展示館付近の石垣にも見られます。

タイ類、クラマゴケモドキ科のチヂミカヤゴケは雌雄異株。茎の長さは約1.5~3cmくらいで不規則に分岐します。葉は重なるように交互につき、雌株の葉はレタスの葉の様に葉先が波打っています。

この特徴が和名の由来です。

春先、雌株の葉の先に小さい胞子体をつけます。

雄株の葉はあまり波打たず、丸い葉が交互に重なるようにつき、クビラゴケとよく似ています。

クビラゴケ科の、クビレケビラゴケがセンター池入口付近の石垣に見られますので比べて見て下さい。(山根)



チヂミカヤゴケ



チヂミカヤゴケ(雌株の葉)



チヂミカヤゴケ(雄株の葉)



クビレケビラゴケ

研修会のご案内

- 1月 23日(日) 『なめこ植菌教室』
植菌体験して家庭で栽培しよう
※ 要予約 (キャンセル待ち)、材料費 700 円
10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長
影井 和男
- 2月 6日(日) 『イワタバコの岩付け』
※ 要予約 (先着 20 組)、材料費 1,000 円 (1/4～予約開始)
10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター
長井 稔
- 2月 24日(木) 『ジャンボ椎茸植菌教室 No.1』
※ 要予約 (先着 30 組)、材料費 800 円 (1/4～予約開始)
第 1 回、第 2 回の両方に参加することはできません
10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長
影井 和男
- 2月 26日(土) 『ジャンボ椎茸植菌教室 No.2』
※ 要予約 (先着 30 組)、材料費 800 円 (1/4～予約開始)
第 1 回、第 2 回の両方に参加することはできません
10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長
影井 和男
- 3月 3日(木) 『針葉樹の見分け方』
～葉の構造を見る～
室内で実物の葉っぱを見て、特徴や見分け方を学ぼう
※ 自由参加・無料、ルーペ持参
10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林植物研究家
埴田 宏

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。また状況によっては、研修内容の変更や中止となる可能性があります。ホームページ、お電話等で最新の情報をご確認ください。

☆お知らせ・ご案内☆

- ・ 12月の休園日は6日、13日、20日、27日の月曜日、及び、年末・年始の12月29日(水)～1月3日(月)です。
- ・ 合格祈願「やまこうばし」のお守り
管理事務所に1人1枚、無料

◎ 展示会

場所:レストハウス
(ガラスケース展示)

モーモーアート クレイ作品展 ～ 1月15日(土)

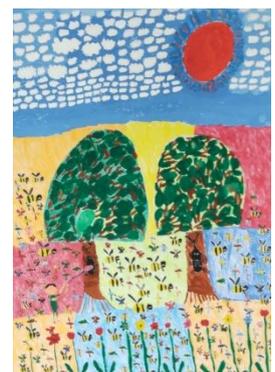
(パネル展示)

第5回 ひろしま遊学の森
「四季の移ろい」写真コンテスト展 ～ 1月23日(日)

令和3年度広島県緑化ポスター
原画入賞作品展 2月1日(火)～2月27日(日)
(場所:レストハウス)
3月1日(火)～3月13日(日)
(場所:学習展示館)



合格祈願「やまこうばし」のお守り



緑化ポスター原画コンクール
入賞作品展より